



詩の

翻訳に

ついて

天沢退二郎
Amazawa Taijirō



まったく、ためいきをつきながら言うほかはないが、詩とこのものは、わからないものである。

(わかりやすい詩などというものは、詩ではないか、あるいは「わかりやすい」と思うことが、自体読者の錯覚にすぎない)

「ランシヨ」の口まねをして言えは、「詩は、わからなさ」がたてるひびきにほかならず、もっと俗に言えは、「わからなさ」それ自体が、「うんとこころがっているようなものだ。

(それでは、そんなものは放つとけばいいかという、それはいいかない。「人間は、食物がなくても五日、六日は生きられる。しかし、詩がなかったら、一日でもだめだ。そう思わないという人は、無知なだけだ」と、これはボードレールの至言)

このように、ただでさえ詩はわからないのに、外国語で書かれた詩なんて！ と、思うのは、しかしあさはかだ。「わからなさ」は母国語でも外国語でも、基本的には同じことだからである。たとえば「わからぬ」でも、その「ひびき」は人の心を動かす。先日シリアの詩人がうちの大学へ来て、「アラブの現代詩」について講演してくれて、そのとき自作・他作とりませて

う。私は、わからないことはわからないまま、ある程度「詩」を書いてきたし、フランス語にさほど精通しているわけではないけれど、フランス語の詩文を日本語に訳す仕事もしてきた。それも、そんなに大層な使命感でやったことではない。

大きくわけて二つの場合がある。グラクの散文詩を大学三年時にまず読んだとき、とにかく何もわからなかった。端からとりついて、難渋しながら日本語に訳すことを試みていくうちに、自分の訳文が、何かある核心に近づいていくように思われた。

「核心」は、語の多義性や、十五世紀バリという「場」の歴史社会的特質や、フランス語特有の音韻などは別に、現代日本語の詩篇に実現できると思われてきた。

ただし、実際の訳出にあたって、まず読み取った意味内容を、完全に自分の日本語で書き下すというやり方はしていない。もとは、原作者がフランス語で書いた作品なのであって、訳者はあくまで従業者であり、作曲家による楽譜をなぞって、いく演奏者にするにすぎない。原文の文法的構造を恣意的に無視し、たとえば主語と述語との関係を全く恣意的に変更することはできないと考える。(言語構造の相違ゆえ、行分け詩を無理矢理逐行的に訳す愚は避けるべきだが)

この点、宮沢賢治の詩の仏訳や英訳、私自身の詩の仏訳などを見ると、誤読からかあるいは、フランス語の詩としてこの方がいい、からか、これらの恣意的な無視や変改があまりにも頻繁に見られるのは、大いに疑問がある。

(筆者＝明治学院大学教授)

愛書狂

ある大新聞の未知の記者から突然、電話が入った。サン・テグジュペリの『星の王子さま』のアメリカ版初版が鹿兒島で見つかったというのだ。どうやら、記者は、私に「それはすごい発見だ」とコメントしてもらいたいらしいのだが、現代文学の初版本などフランスの古書業界では別に珍しくもなんともないばかりか、たいして価値があるものでもないから、かなり抑えた反応をする。『星の王子さま』の初版はアメリカで五百部刷られたとのこと。そこで「五百部だ」たら、そんなに珍しいというレベルじゃなくて、かなりの頻度でオークションに出ますよ」と答えた。すると、いったいどれくらいするものか(つまり古書価格はいくらか)と重ねてたずねるので、手元にあった過去のオークション・レコードを調べてみる。いささか古いが一九九四年に版元装丁のものが一三〇〇フランで落札されている。当時はフラン二五円だから三万二五〇〇円。もう一つは一九八七年に同じものが二九〇〇フラン。一フラン二二円として六万三八〇〇円。いずれにしても、記者が期待したほどの値段ではなさそうだった。ただ、一つだけ例外があつて、八六年には二万二八〇〇フラン(二十八万二八〇〇円)で落札というのがある。これはなんと、サン・テグジュペリの妻のコンシユエ口の所蔵していた世界で一冊だけの『星の王子さま』で、扉にサン・テグジュペリの名前の箔押しが入っている。しかし考えてみれば、コンシユエ口の所蔵本でさえもこの値段なのである。日本とちがって現代文学の名作は初版本だからといってヘラボウな値段はつかないものなのだ。これが健全な古書世界の常識というものではなからうか。(鹿)

「ごちそうさま」の読後感

「隠し包丁」

田村 隆〔著〕



人はもしかすると、食べるために生きているのかも知れない。おいしいものを食べたい時、人は幸福な気持ちになる。大切な人との会話をはずませながら囲む食卓は、心が弾む。

悲しい時も、おいしい料理を目の前にすると、ふさいだ気持ちどこかへ吹っ飛ばしてしまふこともある。寝食を忘れてまで没頭したり悲嘆に暮れたり争ったりすることは、人生の中でそれほど多くはない。

たいていの問題は「ごちそう」が解決してくれる。食卓のなごみが忘れさせてくれる。食は明日への命、よき出会いに欠かせないエッセンスと言える。その出会いの立役者、それが料理人だ。

（四六判 一三〇頁＋カラーレシピア八頁 本体二〇〇〇円 9月下旬発売）

語学書新刊コーナー

「あなたにもできるフランス語通訳ガイド 2000年版」

滑川明彦〔著〕
お待たせしました！ 通訳試験の案内から反射神経を鍛える基礎トレーニング、意外に知らない日本文化の知識と紹介、世界の国名から衣食住の語彙集まで、もりだくさんのロングセラーの最新版。通訳ガイド試験最新問題（平成7年度～平成11年度）と解答付き。この一冊を身につければ、あなたも一人の草の根外交官。日本語・フランス語ともに収録した自己トレーニング用別売テープあり（各年度版共通）。ラボ教材にも最適です。

四六判 248頁 本体2600円 別売カセット本体4200円

「コレクションドイツ語 書く」

岡村三郎〔著〕
e-Mailを使ってドイツやオーストリアなどの人々と交流する新しい世代のための、最新のドイツ語作文指図書。単なる和文独訳ではなく、自分の手持ちのドイツ語でやりくりしながら書いていくためのノウハウを学びます。『はじめに』で基本的な心構えや語彙の増やし方を説き、以下、自分について・一日の生活・週末・スポーツ・音楽・夏休み・クリスマスと正月・読書・旅行など生活に身近な11のテーマに沿って楽しく進行していきます。コラム多数。日本語・ドイツ語索引付。

A5判 239頁 本体2800円 別売C/D/別売カセット各本体2820円

「ドイツ語の手紙」(改訂新版)

宮内敬太郎〔著〕
生きたドイツ語で手紙を書いてみませんか？「書式が分からないものだから……」と二の足を踏んでいる人も大丈夫。宛名や呼びかけ、結尾文の書き方などの決まり事も、初心者に分かるよう解説したすぐに役立つガイドブックです。その他にもドイツ人による実例を幅広く収録して言い回しの習得にも留意しました。商用文・公用文も収録し、ビジネスマンの活用の便をはかりました。履歴書や紹介文の書き方にも言及し、また、ドイツ統一後の郵便番号表示を採用しました。

四六判 209頁 本体1800円

「250語でできるやさしいタイ会話」

友部 愛〔著〕
少ない単語でタイ会話の基本を身につけるための入門書。最初にタイ文字のアルファベットなど発音と文字を概観したあと、タイ語の文章の仕組みを学びます。つく本課は、22のシチュエーションにおける具体的な会話で、タイの人たちとのコミュニケーションに必要な表現や心遣いを覚えます。タイ文字が読めなくても自在に使いこなせるように、タイ文字とローマ字とカタカナの3段構成。声調のある言葉なので、カセットで音を聞きながらの学習をお勧めします。巻末に日常単語集付。

B小型 187頁 本体1900円 別売カセット本体2140円

白水Uブックス 海外小説の誘惑

【白水Uブックス134】
「供述」によるペレレイラは……
アントニオタブツキ作
本書は『インド夜想曲』に始まった故須賀敦子によるタブツキ翻訳の最後となったものである。舞台は一九三八年夏、ファシスト政権下のリスボン。小さな夕刊紙の初老の文芸記者ペレレイラは、紙面にリベラルなフランス小説を翻訳掲載して時局にささやかな抵抗を示していた。だがひとりの若者との偶然の出会いがそんな彼の生活を少しずつ揺るがしていく。若者ロツシは当局の目を潜りてスペイン共和国派に協力しているが、その無思慮なやり方はペレレイラを苛立たせる。にもかかわらず、どこか若い日の自分に似たこの青年に、彼はいつしか援助の手を差し伸べてしまふ。そしてついにある日、破局がおとずれる……。困難な状況下での人生の意味を問いかける本作は、タブツキの新境地を開くものとして絶賛を浴びた。

（須賀敦子訳 新書判 一九四頁 本体八八〇円）

【白水Uブックス135】
「縛り首の丘」
マサデ・ケイロース作
ポルトガル写実文学の先駆者エツ・デ・ケイロースは鋭い観察眼、ユーモアと辛辣な皮肉を交えた重厚な文体で知られる大作家である。本書は彼の代表作である傑作中編「大官（マンダリン）」を殺せ」と表題作「縛り首の丘」を選んで一冊の本とし、この知られざる作家の小説世界を紹介しようとするものである。セゴビアの町の若き騎士ドン・ルイ。血筋にきわめて優れ、見目もわるしき彼は、畏とも知らず愛する女の丘のかたわらを通りすぎるが、その時、野ざらしになっていた縛り首の死体が彼に話しかける。「俺を連れていけ、何かの役に立つはずだ……」。魔術的リアリズムともいえるべき透徹したゆるぎない文体で緻密に構築されたポルトガル文学の傑作、待望のUブックス化（彌永史郎訳 新書判 一八二頁 本体八八〇円）

【白水Uブックス136】
「人喰い鬼のお愉しみ」
タニエル・ペナック作
フランスで大ベストセラーとなり、「ペナック現象」という言葉まで生んだ連作ミステリの記念すべき第一弾である。パリのデパートにつとめるマロセーの仕事を苦情処理係、欠陥商品の文句を言いに来た客の前で上司に怒鳴られ、身も世もなく泣いてみせる。呆気にとられ、ついで同情の念をもよおした客は苦情を取り下げ、めでたく一件落着きといった毎日だ。ところがそのデパートで謎の連続爆破事件が起こり、なぜかいつも現場に居合わせるマロセーに疑惑の目が向けられる。これはまずいと独自の推理を展開するのだが、捜査が進むにつれて彼の立場は不利になるばかり……。設定の奇抜さ、謎解きの面白さ、奇想天外のラスト、どれをとっても群を抜く大作である。第二弾「カービン銃の妖精」も好評発売中。（中条省平訳 新書判 一九六頁 本体二〇〇〇円）

【文庫クセジュ 830】
「宇宙生物学への招待」
フランソワ・ロラン
フロランス・ロラン・セルソール著
ジャン・シュネデル

【文庫クセジュ 831】
「クローヴィス」
ルネ・ミュソグライム著

宇宙生物学は、「無限に小さいもの（分子生物学）」と「無限に大きなもの（天文学）」とが結びつくことにより誕生した。

五世紀末から六世紀にかけて、メロヴィング王朝の始祖として、ガリアの地を征服し、領土を拡張し続けたクローヴィス。ヨーロッパ史において、彼が果たした歴史的役割はきわめて大きい。

【お願ひ】
住所表記が変更になりましたら、御名前、新住所・旧住所、お届けいたしております本紙の帯封コードをお知らせください。

宇宙生物学は、「無限に小さいもの（分子生物学）」と「無限に大きなもの（天文学）」とが結びつくことにより誕生した。ハッブル宇宙望遠鏡がとらえた遙かな星の表情や、火星探査機がもたらす分析データを駆使した宇宙におけるあらゆる形態の生命の科学的なリサーチ。宇宙生物学へと読者を誘う本書は、地球上における生命の起源と進化を踏まえ、太陽系内の天体から遙かな銀河系までを対象に、地球外生命の存在を探る。

はたして、地球外生物は存在するのだろうか？
天体物理学者、分子生物学者、生化学者の三人による共同執筆。図版資料等多数収録
（唐牛幸子訳 新書判 一六二頁 本体九五一円）

【お願ひ】
住所表記が変更になりましたら、御名前、新住所・旧住所、お届けいたしております本紙の帯封コードをお知らせください。

村上春樹氏の近著（書名は88字もあるので省略）によると、「おやしじ」とは「おやしじ」と併置する気もなければ、ちと酷な気もするの、もちろん私が心千々に乱れる中年男だからである。確かに、飲み屋での「一部（おやしじの傍若無人ぶりはいかに最近の青少年が礼儀知らずでもまだま

本十字路
シなほどだが、一方、例えば宴席で座敷に上がる機会に備え常に靴下の替えを靴にいれているおしじさんを見ると、つら哀しさとともにいとおしじすら感じる。「おやしじ」ともかく、「おしじさん」はそう悪くない気もするのだけれど、こりや他人の話だからで、自己憐憫になったらもつとタチが悪い。で、私が考えた「ポイント」は、威張らず、愚痴らず、鼻毛耳毛はまめに抜く、というものであるが、如何

編集者

京都でじゃがたらをライプを見たはずが、無情にも記憶が餃子の具化してゐるの、王将でくた巻いてたか、天下第一品濃厚汁に耽溺してたか、麦酒鯨飲による脳病が往時を爆発！したか、坊主頭を慰撫

秋といつと最近では「芸術でも「スポーツ」でも「食欲」でもなく、「復刊」を連想するようになってしまった。一九九五年秋に小社の創立八〇周年を記念して始まった名著復刊は、昨年までに五回を数える。心待ちにしてくださる読者の方々も多くなった。ただし本年は、『アナトール・フランス小説集』の新装復刊という例外はあるものの、創立八五周年を記念した、新刊の記念企画が中心となる。また、これら他に小社のロングセラーなどを含めたブック・フェアを全国の書店さんで開催していただく。お近くの方はぜひ足を運んでください。なんと、読書

営業部

だより